



8月

3日(土) 久里浜天神社夏の例祭一日目

天満宮祭 (御神楽奉納) 祭りの代名詞とも言える湯立て神楽は、かまどに立つ湯花を見て吉凶を占う神事です。湯花が立てばその年は良い年になると言われています。境内にヤマという、竹に縄を張り、色とりどりの紙で装飾を施したものを設置して行います。最後に現れる「もどき」という道化役にもご注目下さい。

4日(日) 久里浜天神社夏の例祭二日目

八雲祭 (神輿渡御) 八雲大神 (スサノオノミコト) 様のお祭りです。一日かけて内川町内を神輿がまわり、ゆく先々で、神職が、お神楽奉納を行います。ご病氣やケガなどで、普段なかなかお参りに行けないという方のためにも、欠かせない神事です。午前中は久里浜方面、午後は舟倉方面を回ります。昔は10日が八雲祭、25日が天満宮祭というように、別々に行われていましたが、時代の流れによって、二日連続で行うようになりました。夏祭りは、暑さや流行り病に、負けぬ力を戴く意味があります。年に一度だけ、神さまが神社からお出ましになり、大きなお力をお頒ち戴く絶好の機会です。お祭りの肝でもあるこのお神楽に、無病息災の願いをこめてぜひご参加下さい (詳細は社務所まで)。

本日はよくお参り下さいました

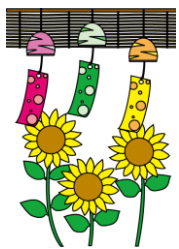
長い梅雨が明け、夏到来です。夏休みに入っても、なかなか梅雨明けせず、気温も低く、海やプールに行きたいと思う気持ちが、なかなか高まらない日々が続きました。ようやくいつも通りの暑い夏になりました。急な気温の変化に体調を崩されませんように、皆さまくれぐれもご自愛下さい。さて今年も氏子会のご協力を得て8月3日(土) 4日(日)に夏の祭礼が行われます。7月25日には、すみれ会の皆さまによる境内清掃が行われ、7月28日には氏子会の皆さまによる事前準備が行われました。その他にも祭礼実行委員会や奉納踊りの練習など、多くの方々がお忙しい中、時間を割いて祭礼のためにと、さまざまな場面で力を尽くして下さいます。令和最初の夏の大祭です。天皇陛下ご即位のお祝いの気持ちも表して参ります。どうかつつがなく執り行うことができますよう、お力添えのほど、よろしく御願い申し上げます。 権禰宜 道子



天神さまの豆知識

柏手かしわでについて

神道では、神さまにお参りするときには、両手を打つ作法を柏手(かしわで)といいますが、この作法は、左と右の手のひらを合わせることから始まります。手のひらを「たなごころ」と言いますが、その意味は「た(手)・な(の)・ごころ(心)」と考えられます。「た」は「て(手)」の古い言い方で、手にも心があると考えたのです。千々に乱れた心を平静にし、二心を一心にするのです。この一心が「まこと心」を意味し神さまに敬意を表しています。また何事を行うにも両手を用いることは大切です。両手には「まこと心」がこもっているからです。小さくて軽いものを運ぶときにも両手を用います。両手は真剣そのものであり、しかも安全です。左手と右手がひとつになること、これが合掌・拍手の心を形にしたものです。つまり、合掌や拍手は「まこと」という目に見えない抽象的な世界を具体的に目に見える形として示したもののなのです。参考文献『神道の常識がわかる小事典』三橋健著 P.H



P 研究所発行

今月の言葉

穢けがれとは

心の汚れである』

神道は穢れを嫌う。どんなに穢れたものでも、溜まらずに流れていけばきれいになる。豪雨で濁った川の水も、川を流れていくうちに、濁りが薄れ、澄んでいく。流れず溜まった汚れは、よどみ濁っていく。家や町の汚れを放置したら、人の手で清めなければ解消しない。人の心も、家や町と同じだ。自分の心によどみを感じたとき、悪い行いをしたとき、心が汚れたと思ったとき、よどみ汚れた心を清め改めることが、穢れを被い清めることとなる。改心とは改めた心だ。住居、環境の汚れは心にも反映する。心の汚れは環境に反映する。物理的にも心理的にも、汚れには原因がある。その原因やよどみを取り除くことで清浄となるのである。引用・参考『神道のことば』武光誠監修